

琉球大学学術リポジトリ

[巻頭言] 沖縄農業研究会の活性化にむけて

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2013-01-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高江洲, 賢文, TAKAESU, Yoshifumi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016303

沖縄農業研究会の活性化にむけて

沖縄県農業研究センター名護支所

高江洲 賢 文



Yoshifumi TAKAESU: The vitalitation of Okinawa Agriculture Reseach Society.

本会の会則によると、本会は沖縄農業の向上・発展および会員相互の連携を図ることの目的とするとおり、その目的を達成するために、1. 沖縄農業に関する調査研究 2. 研究発表会・講演会等の開催 3. 機関誌の刊行 4. その他本会の目的達成に必要な事業を行うこととしている。中でも、2. 研究発表会・講演会等の開催 3. 機関誌の刊行を重点に活動してきた。発表会は総会を兼ねて毎年開催し、近年は琉球大学と農業研究センターの交互開催としている。発表は従来講演発表を1会場で実施した時は32課題が最大発表数であった。最近では講演発表に併せてポスターも加えたため、発表課題数も増えて、講演会への参加者も若干増加した感がある。しかし、機関誌の刊行は当初年間2号発刊を目指していたが、投稿数が少ないために、毎年1号の発刊がやっとの状態である。

本会の会員は正会員、学生会員、賛助会員となっていて、正会員の大部分は琉球大学と沖縄県庁、農業研究センター、農業改良普及センターの職員であるが、いずれの職場でも会員は増えていない。本会活動の活発化を図るためには会員数の増員とともに活動内容の充実化が求められるが、いずれも十分とはいえない。会員確保のため、県内各地でのシンポジウムの開催や、発表会にポスター部門を設ける等の工夫も加えてきた。しかし、農業関係各機関からの本会加入はまだまだ少ない。また、農業大学校や農林高校の学生に講演会への参加も呼びかけているが、安定的に参加するには至っていない。会員を安定的に確保するためには、現在の会員の母体となっている琉球大学農学部、沖縄県庁の行政、研究、普及の各機関で本会活動の意義・内容を十分にご理解頂いて、本会への参加を促す必要がある。また、参加の少ないJAや市町村の担当者、農業関係の民間企業等への積極的な働き掛けも残っているのではないか。

本会では研究会の活性化を図るため、従来の研究成果の発表に加えて、沖縄農業に関する論説や新技術の紹介、研究・行政情報など農業現場に役立つ情報等についても掲載し、会誌内容の刷新を図ってきた。また、平成20年度からは沖縄農業研究会賞を設定して、会員の研究意欲向上に努める等、多様な努力を重ねてきた。紆余曲折はあったものの関係者のご努力により現在の発展を見ることができた。本研究会は、お互いの研究発表の場としての役割が大きく、研究論文を投稿できる貴重な機関誌でもあり、会員にとって研究成果を公表する場として重要な存在であることには違いない。

沖縄県農業研究センターでは今年3人の上席研究員が誕生した。県の組織機構改革による組織のフラット化のため中間管理職が大幅に削減されているが、査読のついた学会等に投稿した一定数の論文や、学位取得、学会賞受賞など顕著な実績が認められた場合、上席研究員や上席研究主幹として1ランク上に位置づけられる制度である。研究員は学会等の論文や学位、学会賞等が個人の実績として認められ、職階や俸給にも直接的に影響するようになったのである。沖縄農業研究会誌もこの査読付きの論文とすれば、実績にカウントされて、会誌の評価も高まって投稿者が増えることも考えられる。研究員の研究意欲の向上に併せて沖縄農業研究会誌への投稿増加による会の活性化に期待したい。